

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070501541		
法人名	医療法人 社団 天翠会		
事業所名	吉田みどりの里 グループホームみどり		
所在地	福岡県北九州市小倉南区上吉田3丁目16-1		
自己評価作成日	平成23年6月8日	ユニット名	せせらぎ

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年7月13日	評価結果確定日	平成23年9月5日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が安心・安全・安楽に過ごして頂けるために、常日頃からの細かな観察や異常時の早期発見・早期対応、かかりつけ医との連携に努めています。ご家族様との連絡や相談などを行うことで、ホームとの信頼関係が築いていけるような施設運営も目指しています。季節を感じる行事やレクリエーションを始め、校区の社会福祉協議会が主催する夏祭りや文化祭などにも参加をしています。また、最近では近くの市民センターで開催される「ふれあい昼食交流会」に参加することで、地域の方々との親睦交流や地域に密着したグループホームを目指しています。実施した行事内容やホームの近況報告として定期的に季刊誌(おたより)を発行しています。季刊誌はご家族様にもお送りしていますが、地域の市民センターにも配布し、認知症ケアやグループホームみどりに対する理解などに努めています。

周囲には、公営団地や新興住宅地が立ち並び、ホームの近くには虫の生息する川や桜並木がある。デイサービス事業所が併設された広い敷地内の一角には、お地藏様が祀られており、お参りを日課とされている方もいる。職員は、その時々に応じた距離感を意識しながら、その人らしい時間の過ごし方や空間の確保に努め、また、喜怒哀楽の感情表現や、意向を表出できる場面を大切に受け止めながら、心身の活性化や自立支援へのアプローチを行っている。専門職としての職員育成を目指す管理者のもと、行政の技能向上支援事業も活用しながら、各職員が積極的に外部研修に参加し、また、近隣の他法人グループホームへの見学や実習を重ねる等、入居者本位の質の向上に向けて、職員個々が研鑽を積み重ねている。家族との関係性の充実に向けても、意見の収集や情報発信が積極的に行われ、法人設立者の思いである、「和」を大切にしたいグループホームであり続けるよう、管理者、職員は、日々奮闘している。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りを行う前に職員朝礼で理念を唱和している。また、理念に沿ったケアが可能な限り出来ることを念頭に置き、ご入居者様の自立支援に取り組んでいる。	独自の理念や基本方針は各所に掲示され、毎朝唱和を行っている。また、季刊誌にも掲載されており、法人開設者の思いである「和」を大切にしたいホームであり続けるよう、関係者間での共有、浸透を図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様と職員と一緒に校区の夏祭りや市民センターでの昼食交流会、また、町内の清掃活動などに参加しており、交流を深めている。	自治会に加入している。法人として、夜間パトロールへの参加や、近隣の高齢者向け市営住宅での見守り活動を行っている。また、入居者、近隣小学校児童と共に、清掃活動に参加したり、市民センターでの交流会、地域行事で歌を披露する等、地域の一員としての活動、交流が行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	校区の市民センターに入居者様と一緒に職員が訪問し、グループホームみどりのおたより(季刊誌)の配布などを行い、地域の方々に少しでも認知症の理解が出来るよう取り組んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、毎回、委員の方々から貴重な意見を頂いており、それを行事内容の検討や運営上の相談に活かしている。入居者様のケアなどの提案では、対応できる事柄から実施している。	定期開催されている会議には、各ユニット代表の入居者、家族代表、地域代表、民生委員、包括支援センター職員の参加を得て、活発な意見交換のもと行われていることが、議事録からも確認できる。委員からの意見や要望を大切に捉え、開かれた事業所として運営への反映に努めている。家族会にて、会議資料を配布している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小倉南区役所内にある社会福祉協議会の担当者に行事計画の提出やボランティア派遣の依頼を行い、ボランティアの方々にはドラッグ行事の参加やホームの訪問に来て頂くことで、協力関係を築いている。	グループホーム協議会の主催する、行政との意見交換会等に参加し、市区担当者や包括支援センター職員との、顔の見える関係づくりを行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な職員研修会の中で身体拘束についての研修を行ったり、外部研修での資料を基に全職員に対し、意識の中に安易にドア施錠をしないなど、身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。	家族や医師との共有認識を図り、職員の意識を高める取り組みを行いながら、拘束のないケアに取り組んでいる。日中の施錠は行わないようにし、職員の見守りや、玄関付近の事務長室を開放したり、併設する事業所との連携も図りながら、安全面での配慮を行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員の目の届く場所に高齢者虐待防止に関するマニュアルを設置している。虐待についての施設内研修を行ない、外部研修に参加した資料を基に全職員に周知徹底し、ケアに役立てている。		

福岡県 グループホーム みどり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度を利用しながら生活をされている入居者様もおられ、職員が身近な事として捉えている。また、研修を受けた職員もあり、権利擁護が必要な入居者様の家族などには説明や相談を受け付けている。	現在、制度を活用している方もおり、継続して外部研修へ参加し、職員への伝達を行い、理解を深める取り組みが行われている。資料を整備し、入居時の説明や、必要時の案内や検討を行い、活用に向けた支援を行っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず文書を作成し、入居者様やご家族様が理解して頂けるような分かりやすい言葉を使い説明を行っている。また、質問や分からない点などは、いつでも答えられるように対応している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様と、ご家族様などにアンケート調査を実施し、その意見や要望などを基に職員で検討会を行っている。それらの結果を運営会議や家族会の場で公表し、より良いサービス提供が出来るよう努めている。	入居者、家族へのアンケート調査を実施し、積極的に意見や要望の収集を行っている。内容は職員間で検討され、実例として、飲み物やメニュー選択についてのサービス向上につなげている。また、心の奥にある思いを汲み取れるよう、苦情に関する研修も行われている。年2回の家族会が開催されている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ホーム内の研修や職員カンファレンスの場で意見交換を行っている。全職員で話し合い、改善できる点は実施している。また、職員の気付きや良い提案などは積極的に取り入れるようにしている。	毎月のミーティング等において職員意見を収集している。実際に脱衣所の設備配置の変更が行われ、介助に有効なスペースが生まれている。また選挙の際の投票に関する職員意見は、家族会や定例会でも検討され、反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長に適宜、職員個々の勤務実態などを報告している。施設内の保守点検や環境改善も行っている。また、功労勤務者には夏季及び冬季賞与に特別加算を付加し、向上心が持てるように努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別、経験年数などで排除していない。現在、全職員の年齢は40～60代まで幅広い年齢層である。職員個々のスキルアップを目指し、資格取得や研修受講を啓発している。管理者としては職員の資質や意見が反映できるように対応している。	事務長、管理者の面接により、法人としての採用となる。意欲や人柄を重要視しており、年齢や性別、経験等による排除は行っていない。県の技能向上支援事業も活用しながら、外部研修参加や、近隣の事業所見学等を積極的にサポートし、全体的なスキルアップを支援している。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	行政や県、市のグループホーム協議会などの研修参加を促している。職員に対する人権に関する研修会を年に2回程、開催している。	外部研修への参加や伝達研修、内部研修を通じて、職員への人権教育、啓発を行っている。法人として、全職員へ「コンプライアンスハンドブック」を配布し、社会的責任や職員自身も含めた権利意識について、方針を示している。	

福岡県 グループホーム みどり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定例研修会や社会福祉協議会主催の社外研修などを中心に職員個々のスキルアップの向上に取り組んでいる。また、認知症実践者研修を始めとして、向上心が持てるような体制づくりを行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会やDブロック主催のグループホーム協議会の研修会を通じて、地域や地域外の同業者とのネットワークづくりが出来ている。また、近隣のグループホームの施設見学も実施している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が話しやすい雰囲気や環境作りを行っている。また、ご本人様から聞き取りが出来ない場合は、ご家族様や担当ケアマネージャー、ソーシャルワーカーなどから必要な情報を得るようにしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様などからの電話での問い合わせや見学の際は、丁寧に対応し、困り事や悩み事などが聞き取れるように努めている。また、ご家族様の意向が聞き出せるような問いかけや雰囲気づくりに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様などの訴えや状況確認をしっかりと行い、ご家族様の意向も踏まえ、ホームの生活が、ご本人様に適しておられるかを見極めている。適してないと判断した場合は今後の方向性をご家族様と相談している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者様に担当性の職員配置を行っており、その方をしっかりサポートしている。社会情勢や世間話を交えるなどして、入居者様との会話を心がけている。会話の中では職員が学ばされる事も数多くある。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の様子や状況を連絡し、ご家族様と共に支援を行っている。ご家族様への面会や行事などの参加を促し、交流の場が持てるように努めている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅より馴染みの品、思い出のある家具や仏壇なども入居の際、なるべく持ってきて頂いている。ご家族様以外に兄弟や知人などの来訪もある。ご本人様から要望があれば、電話連絡の支援も行っている。	併設するデイサービス事業所から入居される方も多く、馴染みの方との交流を楽しむ機会もある。家族の協力を得ながら、馴染みの理美容を利用したり、お孫さんとの手紙のやり取りを支援している。	

福岡県 グループホーム みどり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	毎日の申し送りの際に個々の状況報告がある。その 中で問題点などがあれば、状況判断し、入居者様 同士の関係がうまくいくように配慮している。困 難事例は職員カンファレンスを行い、問題解決に 努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への入所で退去された場合、時間 をとって継続して伺うようにしている。また、様 子や状況などをご家族様へ連絡する場合もある。 退去されたご家族様が来訪されたり、経過報告 などの連絡もある。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居者様の生活暦や、ご家族様の情報および日 常生活の中での思いや行動の見極めを行い、その 都度、意向や希望に沿えるよう努めている。困 難な場合は、ご家族様の協力を得て実現できる ように対応している。	安定している職員体制の中で、馴染みの関係 性が築かれ、喜怒哀楽の感情表現の場面を大切 に受け止め、また、何気ない言葉や表情から、 思いや意向の把握につなげるよう努めている。 定例会等にて職員間の共有を図っている。	記録様式やアセスメント情報としては、身体 機能に関する記述が中心となり、日々の暮らし の様子や、これまでのライフスタイル等、思い や意向の把握につながる情報は少ない。職員 の気づきを共有し、また、新たな視点を確保 する為にも、工夫や充実に期待します。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	ケアマネージャーなどの情報提供書や、ご 家族様からの聴き取り調査を基にアセスメント 表を活用し、生活暦や現在に至るまでの情報 収集に努めている。その分析結果を踏まえて ケアプランなどに反映させている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有 する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で気付いた事や、ご本人様 の有する力などを情報共有ノートの記録に残 している。その事が職員間での情報の共有に 繋がっている。定期的なモニタリングを総 合的な生活指針に活用している。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり 方について、本人、家族、必要な関係者と 話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映 し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議で、ご本人様・ご家族 様・担当職員の総合的な意見交換を行い、ご 本人様の意向や状態を見極めて上で介護計 画を作成している。また、定期的なモニタ リングで課題の再認識を行っている。	本人、家族の参加する担当者会議におい て、本人本位に基づくニーズの把握が的確 に行われており、介護計画の作成が行われ ている。3か月毎にモニタリングを実施し、 状況の確認や見直しにつなげている。	今後のアセスメントの充実を活かし、目 標設定や、本人、家族の役割を、より具 体的に示していくことにより、共有が 図りやすくなると思われます。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報 を共有しながら実践や介護計画の見直し に活かしている	日中・夜間と介護計画に基づいたケアを 行い、個別ケアの記録を残している。また、 モニタリングを通しての介護計画の見直し や情報の共有を行っている。情報共有 ノートを使用し、申し送りなどに活用 している。		

福岡県 グループホーム みどり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスと併設しており、多動や徘徊される方などは、互いにいつでも協力できる体制づくりを行っている。デイサービスのイベント開催の時は入居者様に見学してもらい、楽しいひと時を過ごして頂いている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週1回、ボランティアマッサージの方が来所され、入居者様の心身のリラクゼーションとなっている。近くの市民センターにも訪問するなどして地域との交流を図っている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診で入居者様やご家族様から安心感などを得ている。異常を認める時はかかりつけ医と連絡を取り合うなどして、臨時受診や、ご家族様などの意向を踏まえて他の医療機関に受診をして頂いている。	入居時に、かかりつけ医や協力医による受診や往診体制について説明し、了解を得ている。看護師である管理者による日常の中での観察や、職員の気づきをもとに、健康管理が行われ、早期の対応につなげている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者兼看護師が職員として勤務に従事しており、日常の健康管理や、かかりつけ医との連絡もスムーズに行っている。異常の早期発見や急変時の対応など、介護職員のケア負担の軽減にも繋がっている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が治療目的で入院された場合は入院先の病院を訪問し、主治医やソーシャルワーカーなどとの情報交換や、ご家族様と連絡などを行い、状況把握に努めて早期に退院できるように支援体制を整えている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応や看取りケア体制を整えている。入居時などに重度化や終末期ケアの指針をご家族様に分かりやすく説明している。状態の変化に伴い、かかりつけ医とも相談したり、話し合いを行うことで、ご家族様・かかりつけ医・職員間で方針を共有している。	入居時に、「重度化対応・終末期ケア対応指針」をもとに説明を行い、同意を得ている。協力医や母体医療機関、同法人施設との連携も活かしながら、状況の変化に応じて、関係者間で方針の共有を図っている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地区の救急隊の協力などもあり、年1回程、救命救急教室を開催している。AEDの取り扱い方法や心肺蘇生法などを学習している。看護師の指導の下、急変時などの対応方法について実践している。		

福岡県 グループホーム みどり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回(うち1回は夜間想定)実施している。職員にはマニュアルに沿って避難ルートを理解し、安全かつ速やかに誘導できるようにしている。地域の消防署や警備会社などとも連携が取れている。	年2回、火災や自然災害に備え、昼夜を想定した避難訓練を、併設するデイサービス事業所と合同で行っている。運営推進会議での議題として取り上げ、緊急連絡網の確認テストも行われている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりに意識付けを行い、ご本人様の尊厳を大切にしよう言葉かけであったり、対応方法などを配慮するよう指導している。学生ボランティアにもプライバシー保護のため、誓約書を書いてもらっている。	排泄ケアや入浴支援の際には特に留意し、尊厳を損ねない声かけや対応となるよう、さりげない支援を心掛けている。呼び方や声かけの方法についても、個別に応じた検討が行われ、職員間で共有している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の言動やしぐさ、身振りや表情などから速やかに意向などを察知するよう心がけている。また、ご本人様の分りやすいコミュニケーション手段で説明したり、なるべく自分で決めれるよう支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりに合わせた個別ケアが出来るよう努めている。その日の希望をおっしゃる方もあり、外出や買い物などの支援を行っている。レクリエーション参加にも、ご本人様に確認し、自己決定を尊重している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回、ビューティヘルパーが訪問し、カットや髪染めなど、その方の身だしなみが保てるよう支援している。また1名のみ、ご家族の協力を得て馴染みの美容院でカットをして頂いている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材係が献立を作成し、その日の職員が毎食、調理を行っている。盛り付けなどの下準備が出来る方は職員と一緒に頂いている。また、食後の食器洗いが出来る方には率先して行って頂いている。	嗜好や季節感、栄養バランス等に配慮しながら献立が作成されている。スーパーでの買い物や、食後の洗い物、来訪者にお茶を勧めてくれる方等、力を発揮する場面がある。個別の外食についても企画されており、食事を楽しむ取り組みがある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回、体重測定を実施している。その方の体重増減に合わせて、体調や普段の食事摂取量などを考慮し、主食などの量を調節している。一日の水分摂取量もチェックしながら必要量が摂れるよう支援している。		

福岡県 グループホーム みどり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけや確認を行っている。義歯洗浄や磨き残しのケアなど、その方に応じた援助を行っている。月に2回、歯科往診があり、口腔状態をチェックして頂いている。口腔ケア用具も殺菌消毒している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、尿や便の回数など、個々に応じた排泄パターンを把握した上で、一定時間毎にトイレ誘導を行ったり、失敗がなく自尊心を傷つけないような排泄援助を行っている。	個別の機能や状況の把握に努め、排泄チェック表によるパターンや間隔の把握に努めながら、さりげないトイレ誘導や、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方の排便パターンを把握し、便秘にならないよう水分量チェックなどを行っている。特に便秘予防の方には適度な運動を促している。また、朝食時に牛乳をお出ししたり、ヨーグルトなどを摂取して頂いている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ決まった時間帯に入浴して頂いているが、その日の体調に合わせて入浴日や時間を変更し、対応している。現在はいないが、希望がある方は毎日、入浴できる支援体制を整えている。	希望や疾患に応じて入浴剤を選択し、ゆっくりとした入浴を楽しめるよう支援している。入浴スケジュールは設定されているが、希望や状況に応じて、毎日の入浴にも対応することができる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活パターンに合わせて日中、休息が必要な方は声かけし、休息して頂いている。昼夜逆転が起きないように日中は離床を促し、夜間熟睡ができるような支援を行っている。また、照明なども配慮している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルケースに薬効や副作用などが記載された処方内容を閉じて、その理解に努めている。薬包に記載された氏名などを確認し、与薬を行っている。異常などがあればかかりつけ医に連絡対応している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦などをご家族様からの情報収集を基に個別ケアやレクリエーション活動などに役立てている。職員と買い物に行き、お菓子などを買われている。タバコは火事の危険性を考慮し、全面禁煙である。		



福岡県 グループホーム みどり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>外出は日々の敷地内の散歩に始まり、近くの河川敷までの散策や不定期でのバスハイクに出掛けている。日程が合えば、ご家族様にもドライブ行事に参加して頂いており、地域のボランティアの方々にもドライブ行事に参加するなどして協力を仰いでいる。</p>	<p>個別の夕食や買い物の支援を行っている。季節にあわせて、近隣の桜並木を眺めながら散策したり、広い敷地内にある、お地藏様へのお参りを日課としている方もいる。ボランティアの協力も得ながら、家族とともに外出する行事等が企画、実行されている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在、お二人の方が千円程度のお金を所持しており、そのうちお一人は買い物同行した際、単行本などを購入されている。もう一人は敷地内のお地藏様に費銭をしている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人様が希望すれば、ご家族様に電話をかけて頂いたり、また、ご家族様からの電話の取次ぎに対応している。また、1名の方が定期的に家族様宛てにハガキを出されており、それをポストに投函している。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>外の明るさとの調和を考え、ホーム内の照明やカーテンの調節などに注意している。季節を感じて頂けるようなディスプレイも行っている。ホールでくつろいで頂けるような椅子の配置にしている。環境整備を行うことで、清潔な空間を保てるようにしている。</p>	<p>中庭を中心とする回廊式となっており、廊下のベンチやリビングのソファ、和室スペースも設けられ、それぞれの方にとっての寛ぎの場所がある。玄関先のアプローチや室内空間は、「和」を基調とするデザインとなっており、落ち着いた雰囲気となっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールで入居者様同士が気軽に会話できたり、職員と一緒に絵合わせゲームなどをし、過ごして頂いている。また、ゲームなどに参加されない方は新聞や読書ができるような配慮を行っている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人様やご家族様と相談し、馴染みの品や使い慣れた品物を持ち込んで頂き、居心地よく過ごせるように配慮している。居室内には、ご家族様の写真や誕生会などの写真を掲示し、心が安らぐようにしている。</p>	<p>トイレ付の和室と洋室の2タイプの居室が用意されており、開口部は大きくとられ、開放的な作りとなっている。仏壇や、椅子等の馴染みの家具が持ち込まれ、写真や絵の飾り付けにより、安心できる居室作りへの配慮が行われている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>段差のない構造で下肢筋力低下の方や転倒リスクの高い方に配慮されている。また、身体状況などにより歩行器などが使用できるようにしている。手摺は至る所に設置しており、安全な移動が出来るようにしている。</p>		